姫路大学大学院看護学研究科論究　第４号（2020）

# 姫路大学国際連携交流拠点『Global Gateway』の開設

藤田さやか・高橋　幸子・宮本　純子

## 1. Global Gatewayの開設と概要

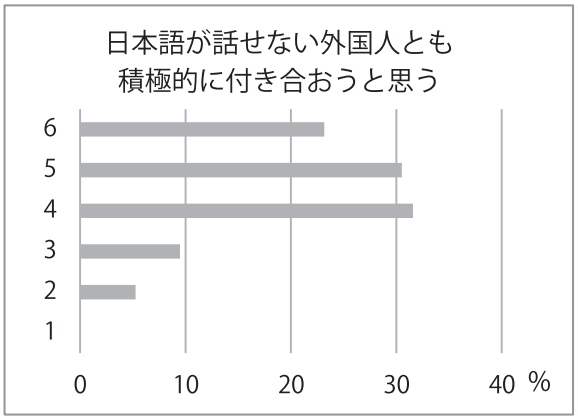
本学では，看護学部のディプロマポリシーに掲げられている『国際的動向に関心を持ち，それぞれの国や地域の文化の相違を踏まえて，グローバルな視点から看護者としての役割を理解し，行動できる基礎的能力を身につける』ことへの教育的支援として，これまで国際看護・異文化看護に関連する授業を提供してきました．2019年度には国際交流検討部会が組織され，本学の学生と教職員のグローバルなコミュニケーション能力を育むための，多言語および生活習慣・文化・価値観などの多様性や人権を尊重する態度の学習機会の提供を目的とし，大学における国際連携交流拠点の設置準備をすすめてきました．特に，ビクトリア大学（ブリティッシュ・コロンビア州，カナダ）との大学間協定締結は、本学の国際化への重要な契機になったと思われます．

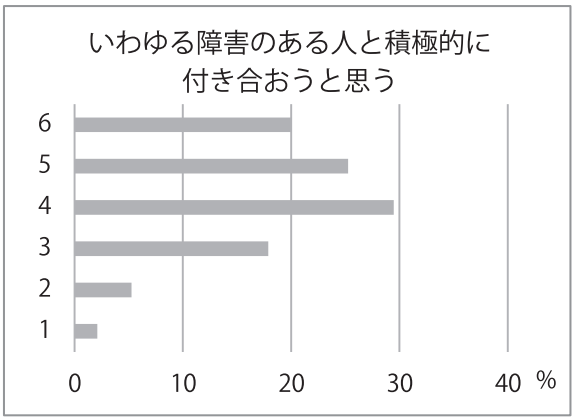
大学間協定締結と並行し、学内の国際連携・国際交流の活動拠点として2020年10月に，新２号棟１階のファイアールームに『Global Gateway』を開設することができました．「Gateway」は入り口や通過点という意味を持ちます．英語に限らず，多言語や多文化理解の能力育成を目的とした施設としており，これを通過点にしてグローバルな事象への関心を高め，視野を広げていってほしいという思いから『Global Gateway』と命名しました．この施設では，学生が言語や文化を学習できる場であるとともに，交換留学生の受け入れや，大学間提携締結校での語学留学および海外看護研修の受講支援ができる機能を備えています．

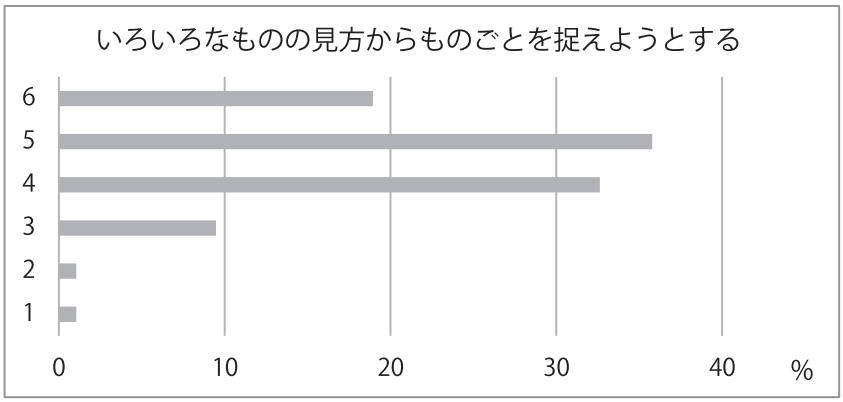
Global Gatewayは，学生のニーズを重視したプログラムを提供するために，半期任命制の学生ボランティアとともに活動することも特色としています．活動内容には，施設でのルール作りや実施プログラムの立案と運営，海外からの研究者や学生との交流を含んでおり，第１期には１年生を中心に５名の学生が名乗りを挙げてくれました．コロナ禍で，当初の計画通りには活動が進みませんが，新年度にはより設備と教材を充実させ，多くの学生・教職員の集いの場にすることを目指しています．

## ２．本学学生の異文化理解の傾向

Global Gatewayにおける学習プログラム立案の基礎データとして，本学学生の異文化理解の傾向を知るために，2020年度入学生に対し調査を実施しました．95名の学生からの協力が得られ，「日本語が話せない外国人とも積極的に付き合おうと思う」「いわゆる障害のある人と積極的に付き合おうと思う」「いろいろなものの見方からものごとを捉えようとする」といった『柔軟な価値観』や『少数派への関心』が高い傾向にありました．

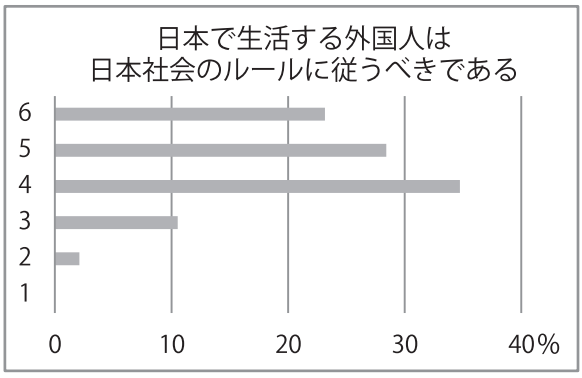


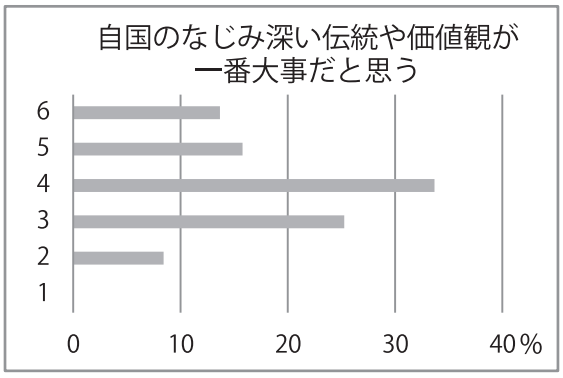



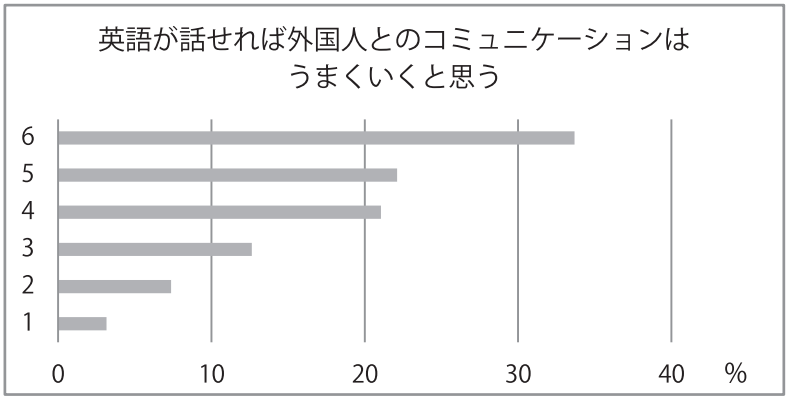




| | |
|---|---|
| 非常にそう思う | 6 |
| かなりそう思う | 5 |
| 少しそう思う | 4 |
| どちらかというとそう思わない | 3 |
| ほとんどそうは思わない | 2 |
| まったくそうは思わない | 1 |

一方で、「日本で生活する外国人は日本社会のルールに従うべきである」「自国のなじみ深い伝統や価値観が一番大事だと思う」「英語が話せれば，外国人とのコミュニケーションはうまくいくと思う」と，自文化中心主義の傾向がみられ，多言語・多文化の理解および，近年増加傾向にある日本在留外国籍者へのコミュニケーションに対する教育的介入の必要性が見出されました．




| | |
|---|---|
| 非常にそう思う | 6 |
| かなりそう思う | 5 |
| 少しそう思う | 4 |
| どちらかというと<br>そう思わない | 3 |
| ほとんどそうは思わない | 2 |
| まったくそうは思わない | 1 |

本調査は継続的に実施中であり，考察途上にありますが，学生の多文化理解の能力を育成し，ディプロマポリシーに寄与するための学習プログラムの構築に生かしていきたいと考えています．

## 3．今後の計画と課題

2020年度は全世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症拡大予防のため，国際連携・国際交流に関する事業の計画変更を余儀なくされました．2021年度には，香港理工大学との学部間提携を完了させ，交換留学プログラムを考案していくことを目標にしています．さらにGlobal Gateway内では，これまで看護学部国際活動委員会で実施してきた多文化カフェも含め，季節ごとの各国のイベントや多言語を学ぶことができるプログラムの開催を考えています．今後は，施設内の学習環境やシステムの整備，専任職員の配置と相談窓口の一本化，および学部・研究科との連携が課題です．